

島根原子力発電所2号炉 審査資料	
資料番号	EP-057改06(回2)
提出年月日	令和2年9月30日

令和2年9月  
中国電力株式会社

島根原子力発電所2号炉 ヒアリングにおける確認事項に対する回答一覧表（設計基準対象施設：第14条（全交流動力電源喪失対策設備））

No.	年月日	コメント内容	回答状況	回答内容
1	平成26年10月15日	電源容量の妥当性については、自主対策設備を用いても十分な容量があることを説明すること	平成28年8月3日 第176回ヒアリング にて説明	コメントNo.3に統合して回答
2	平成26年10月15日	蓄電池容量は電池の劣化を考慮しても必要な容量を確保できることを説明すること	平成28年8月3日 第176回ヒアリング にて説明	コメントNo.4に統合して回答
3	平成26年10月16日	【T B】蓄電池の給電評価について、不確かさや自主対策への対応を考慮しても、必要な負荷に供給可能であることを説明すること	平成28年8月3日 第176回ヒアリング にて説明	全交流動力電源喪失時に電源供給が必要となる直流電源設備について、時系列で整理している
4	平成26年10月16日	【T B】鉛蓄電池の時間率等を考慮した詳細評価を説明すること	平成28年8月3日 第176回ヒアリング にて説明	電池工業会規格「据置蓄電池の容量算出法」(SBA S 0601-2014) による計算法に基づく計算として、蓄電池容量が使用年数による経年劣化を考慮した容量を設定している
5	平成27年9月3日	直流電源が必要とされる時間の考え方を説明すること（70分と12時間の違い）	平成28年8月3日 第176回ヒアリング にて説明	全交流動力電源喪失から8時間は直流電源供給が可能であり、8時間は代替交流電源設備が復旧する時間を包絡している
6	平成27年9月3日	S A可搬型交流電源設備が接続されるまでの間に必要となる電源と負荷について、それぞれD B設備/S A設備の別を整理し、抽出の考え方（12時間の間にどんな機能が必要とされるのか等）を説明すること	平成28年8月3日 第176回ヒアリング にて説明	全交流動力電源喪失時に電源供給が必要となる直流電源設備について、時系列で整理している

島根原子力発電所2号炉 ヒアリングにおける確認事項に対する回答一覧表（設計基準対象施設：第14条（全交流動力電源喪失対策設備））

No.	年月日	コメント内容	回答状況	回答内容
7	平成28年8月3日	可搬型設備の保管場所を踏まえて、蓄電池の容量の考え方等を説明すること(原電)	平成31年1月24日 第192回ヒアリング にて説明	東海第二発電所の可搬設備保管場所変更により、可搬型代替交流電源設備からの電源供給時間に変更になることに伴い、蓄電池容量の考え方についてのコメント 島根2号炉は全交流動力電源喪失から8時間は直流電源供給が可能であり、8時間は代替交流電源設備が復旧する時間を包絡している
8	平成28年8月3日	常設代替交流電源設備から電源供給を開始するまで時間が、最長時間であることを説明すること(各社)	平成31年1月24日 第192回ヒアリング にて説明	常設代替交流電源設備から電源供給を開始する時間（70分）は作業時間を考慮している
9	平成28年8月3日	蓄電池容量計算におけるパラメータ（Ki等）について、説明を充実させること(各社)	平成31年1月24日 第192回ヒアリング にて説明	電池工業会規格「据置蓄電池の容量算出法」(SBA S 0601-2014) による計算法に基づく計算方法及び蓄電池容量換算時間（K値）の一覧を記載
10	平成28年8月3日	蓄電池容量について、原子炉を停止し、一定時間（8時間）冷却できる容量があること及びこれを超えてS A対策を行う容量も考慮していることを説明すること(各社)	平成31年1月24日 第192回ヒアリング にて説明	8時間以上のRCIC運転継続が可能な蓄電池容量を有していることを記載 なお、8時間以降は有効性評価にて対策を評価している
11	令和元年6月10日	訓練実績時間について説明すること	令和元年6月19日 第225回ヒアリング にて説明	ガスタービン発電機の起動失敗から、高圧発電機車の電源供給までの訓練実績時間（4時間37分）について記載した (EP-057改04(説2)「2ページ」,EP-057改04「14条-別添8-1,2ページ」,EP-057改04(比)「122,124ページ」)